

事業実績書

団体名	吉敷地区地域づくり協議会
-----	--------------

1 地域づくりの活動方針（テーマ）

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり「みんなで支え合う 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

活動目標1「地域振興」ふれあいと交流による元気で住みよいまち
 活動目標2「地域福祉」ともに支え合い心豊かに暮らせるまち
 活動目標3「安心・安全」みんなで協力してつくる安心で安全なまち
 活動目標4「環境づくり」美しい自然をみんなで守る快適なまち
 活動目標5「地域個性創出」固有の歴史や文化による個性あふれるまち

2 今年度、重点的に取り組んだ視点（事業）

①	視点	コミュニティタクシー制度の導入による旧出張所・公民館跡地活用の検討		
	事業名	コミュニティタクシー導入事業	決算額	425,847円
②	視点	個性豊かで活力のある自立した地域社会の実現のための地域住民による計画策定		
	事業名	吉敷まちづくり計画の策定	決算額	446,970円
③	視点	赤田神社との連携によるホテル観賞の夕べの開催を通じた交流の促進		
	事業名	ホテル観賞の夕べ	決算額	0円

3 今年度の重点的視点（事業）に対する評価

検証（成果、来年度以降への改善点等）	自己評価
<p>①ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを進めるために、旧出張所・公民館跡地活用について平成27年度に設置した特別委員会において継続して協議、検討しているもの。高齢化の進展により、今後免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が重要な課題となってきたため、今年度5月6日に「コミタク良城」として実証運行を開始しました。実証運行協議会では、積極的な地域住民の利用が不可欠であることを伝えるとともに、当初、導入する5地区（赤田、佐畑、木崎、中村、上東）を左回りと右回りで巡回するルートを設定し、行きも帰りも利用できるようにしました。開始期間がコロナ禍と重なったことから、乗車率のアップが進まないことや利便性を検討し、10月から運行ルートを「周回コース」から（佐畑・木崎便）（赤田・上東・中村便）の2つの運行ルートを設けた「往復するルート」に変更しました。利用促進のため、新しい時刻表を作成するとともに、広報紙「よしき」やチラシなどで地域住民へ定期的に呼びかけました。10月の運行ルート変更により、利用者は倍増しましたが、年明けからのコロナ禍により、再び伸び悩みました。令和4年4月に実証運行を終え、5月から本格運行に移行する予定でしたが、コロナ禍への配慮により、市から実証運行の延長が了承されたため、期間を9月まで延長することとなりました。10月からの本格運行においては、運行経費の3割を運賃収入などにより地元が負担することになっているため、運行経費の抑制を検討したところ、運行日や便数の見直しを余儀なくされました。その結果、運行ルートは現行のまま、運行日と便数を削減して延長された実証運行を継続することになりました。引き続き、本格運行に向けて、乗車に対する啓発活動を図っていきます。</p>	◎

<p>②吉敷地域は地域づくり協議会・吉敷自治会が策定する「地域づくり計画」と地区社協が策定する「地域福祉活動計画」の両計画を一体的に策定し、「吉敷まちづくり計画」としており、地域住民に分かりやすく団体の活動の円滑な推進を図っています。その計画期間が令和4年度までとなっていることから、「自分たちのまちは自分たちでつくる」の理念のもと、今年度は計画の評価・検証や地域課題の収集するために、住民アンケートを実施しました。今後は、その集計結果を基に新たな課題の洗い出し等に努め、活動団体や、地域住民のワークショップ等の開催により、まちづくり計画の策定に努めていきます。</p>	◎
<p>③吉敷川が貫流する吉敷地域は、県内でもホタルが乱舞する地域として知られており、現在も良城小学校児童や地域住民による「ホタルをはぐくむ会」において、ホタルの増殖・放流事業に取り組んでいます。このような中、吉敷のホタルを通じて、地域への関心や愛着を深め、自然環境の保全の意識の高揚を図るとともに、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、当地域では「よしきホタルの夕べ」実行委員会を立ち上げ、取り組んでいます。今年度は、ホタルの乱舞が見られる赤田神社を会場にし、より多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながるよしきホタルの夕べの開催を予定していましたが、昨年度同様コロナ禍の影響を受け、残念ながら中止を余儀なくされました。今後も引き続き取り組みます。</p>	×

◎（大変よくできた） ○（概ねできた） △（課題が残った） ×（全く出来なかった）

4 総括

<p>「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。しかし、今年度も、コロナ禍の影響を受け、中止を余儀なくされたものが多く、大変残念な年でした。</p> <p>その中でも、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」では、イベントが少なくなったにも関わらず応募作品の増加が見られました。また、地域ぐるみによる見守り活動の仕組みづくりにも取り組む「ふれあいネットワーク協議会」により、デザインを更新した一体的な見守りのためのグッズを活用した地域全体での見守りができました。昨年から引き続きコロナ禍の影響を受けましたが、徐々にコロナ感染拡大防止に努めながらの生活に慣れるにつれ「コロナ禍であるからこそできることは何か」を考える機会が多くなりました。そのような中、様々な交流会はじめスポーツ事業や秋の祭り「吉敷ふるさとまつり」では、実行委員会メンバーにより、交流センター内で感染拡大を防止しながらもできることを探すことができました。このように、地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての地域住民の話し合いの場となってきています。同様に、様々なスポーツ交流大会や、講演会などもコロナ禍の中で開催することができました。</p> <p>また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっています。そのため、地域住民の意見を把握するために行われたアンケート調査結果を基にコミュニティタクシー運行を検討する「吉敷地域コミュニティタクシー実証運行協議会」を設置し、今年度実証運行を開始しました。しかし、コロナ禍を受けての運行となり、市との協議により、実証運行期間が延長されることが決まりました。</p> <p>地域情報を広く地域住民に伝えるために、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めながら6年が経過し、この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、作る側と読む側の双方向で意見交換ができるコーナーを新たに設けるなど、広報紙を手にとっていただけるよう工夫を重ね、取り組みました。地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては2度目の最優秀賞である「会長賞」を受賞することができ、毎年賞をいただいています。</p> <p>更に今年度は、地域交流センターにおいて、地域づくり協議会を中心に会員である地域住民が主体的に社会教育を始めとする地域活動に関わっていることが評価され、文部科学大臣の優良公民館表彰も受賞することができました。</p> <p>地域の史跡等の案内板設置への取り組みについては、今年度は、大内氏にゆかりのある凌雲寺跡の駐車場に大看板を設置するとともに大内氏の歴史講演会を開催し、地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。</p>
--

5 事業内容

(1) 協議会運営

事業費	7,774,259円（交付金4,880,260円） （内自主財源：2,893,999円）
事務局の運営体制	<p>（事務員等の雇用人数） 事務局長1名 事務員3名</p> <p>（運営費の主な内容） 事務局人件費、事務費</p> <p>（成果・評価） 吉敷地域は、地域づくり協議会業務をはじめ、自治会業務、地区社協業務、地区社協が受託する指定管理業務など多岐にわたる業務を4人体制で担っており、事務局員は慌ただしい毎日を過ごしました。こうしたことから、都度、地域づくり協議会役員とは運営や業務について協議しています。また、地域交流センターとも連携した業務を進めることができるように意見交換に努めています。今年度は、コミュニティタクシー実証運行の年となり、実証運行協議会では、利用促進のために当初の運行ルートの変更等を実施したり、広報紙等による呼びかけをするなど、努めてきました。コロナ禍の中での実施となったため、実証運行期間の延長が了承され、令和4年10月からの本格運行に向けて更なる利用促進を図っていきます。また、計画策定については、地域づくり・自治会・地区社協が一体となり、住民アンケートの実施を実現するなど、「自分たちのまちは自分たちの手で作る」という機運の醸成が図られました。</p> <p>（今後に向けて） 地域づくり活動や地域福祉活動支援など、多岐にわたる業務に事務局長1名、事務局員3人体制で効率的に遂行するため、業務の棲み分けや、事務分担の見直しなどに取り組むことが必要であり、地域づくり関係団体や特に地域交流センターとの連携が重要です。</p> <p>年々業務が増加していることから、事務局の負担も増えるばかりですが、少しでも負担を軽減するため、引き続き、地域づくり協議会役員や地域づくり関係団体と協議・連携に努め、事務局運営を行なっていきます。特に、協働によるまちづくりを推進するためには、事務分担等含め、地域交流センターとは協議・連携しながら行うことが重要と考えます。</p>

(2) 地域振興

事業名	ふれあいネットワーク
事業費	1,109,748円（交付金859,748円） （内自主財源：250,000円）
事業概要	<p>（実施内容） 吉敷地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動を総合的に推進する「ふれあいネットワーク協議会」において、地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動をはじめ、各種イベントや行事等の情報発信、見守り活動から生まれた「ハウちゃん、ベンちゃん」の積極的な活用などに取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） ふれあいネットワークの活動の一つでもある「あいさつ運動」では、あいさつの日に合わせて登校時間帯に立哨し、地域ぐるみであいさつ運動に取り組むとともに、テーマを定めて標語を募集し、応募のあった標語の中から選出した作品を地域情報紙「ふるさとだよりよしき」に1年間掲載します。また、昨年度更新された一体的な見守りのためのグッズの活用にも取り組みました。</p> <p>（評価） 年間を通して、ふれあいあいさつ運動に取り組むことができました。吉敷地域では「あいさつの日」の立哨箇所工夫を加えながら、活動に参加する人の増加に取り組みしました。また、吉敷地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動を総合的に推進する「ふれあいネットワーク協議会」により、地域住民や地域づくり関係団体と協議・検討することができるようになり、地域内の様々な情報もメールで配信することができました。また、一体的な活動のためのグッズを活用することができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、「ふれあいネットワーク協議会」において吉敷地域の見守り活動を総合的に協議・検討し、必要に応じてグッズの作製に取り組み、見守りグッズを活用した地域の見守り活動を推進します。</p>

事業名	コミュニティタクシー導入事業（旧出張所・公民館跡地活用検討）
事業費	425,847円（交付金425,847円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 旧出張所・公民館跡地を積極的に活用するために、跡地を拠点としたコミュニティタクシーの運行を検討するとともに、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入のための素地として、吉敷地域の実情に見合ったコミュニティタクシー実証運行協議会を立ち上げ、実証運行に取り組みました。乗車される方々の意見を集約したり、運行ルートの変更を実施したりしながら、乗車率アップに取り組みました。</p> <p>（評価） 跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携を取りながら、実証運行に取り組みました。コロナ禍を受け、乗車率が思わしくなく、10月には運行ルートの変更をするなど、乗車率のアップに取り組みましたが、度重なるコロナ禍の影響から、本格運行に向けて不安の残るものとなりました。市から実証運行期間の延長に対し、了承を得たことから、令和4年9月末までの猶予ができたため、本格運行に向け運行経費の抑制を検討し、運行日や便数の見直しを図りました。しかし、市に提出する申請書等の手続きなど事務処理の進め方や交流センターとの連携については課題が残りました。</p> <p>（今後に向けて） 延長された実証運行期間の中で、運行経費の抑制に係る運行日や運行便数の削減に対する効果や課題を検討し、本格運行の実現に向けて取り組みます。</p>

事業名	夏まつり・ふるさとまつり
事業費	123,186円（交付金93,906円） （内自主財源：29,280円）
事業概要	<p>（実施内容） 夏祭り、秋祭りの開催</p> <p>（実施時期） よしき夏まつり8/13(中止)、吉敷ふるさとまつり11/21</p> <p>（参加人数） 延べ350人</p> <p>（成果） ふるさとまつりのコロナ禍での開催も今年で2回目となり、交流センター内で開催することができました。新たな企画にも挑戦することができ、準備など円滑な運営ができました。夏まつりは残念ながら中止となりましたが、ふるさとまつりでは、企画を検討する際には、活発な意見が交わされ、新しいアイデアに積極的に取り組むなど、吉敷の祭りに新たな風を吹き込むことができました。</p> <p>（評価） 新たな企画により、多くの参加者とのふれあい、交流が図られるとともに、若い人を集めた企画委員会を中心とした運営を進めるための基盤づくりが確立されつつあります。</p> <p>（今後に向けて） 新たな委員による企画委員会を継続するため、事務局・センターとの役割分担等を検討するとともに、楽しく関われる会にするには委員どうしの交流も必要であるため、その交流にも取り組みます。</p>

事業名	よしきフォトコンテスト
事業費	586,166円（交付金586,166円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） テーマに沿った写真のコンテスト</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域住民や地域づくり関係団体で組織する実行委員会の中では、例年通りイベント等への参加者の増加を図るとともに、より多くの写真の応募につながるよう検討を行いました。コロナ禍の影響からイベントが少なくなったにもかかわらず、地域内外から189点の応募作品を集めることができました。また、費用対効果の面から意見が多かった応募写真をカレンダーにして配布することについては、実行委員会の中で意見を交わし、今年度は、印刷はせずに地域づくり協議会のウェブ上に掲載し、広く地域住民に知らせる方法を取りました。昨年度から、新たにつくっているフォトコンリーフレットにより、多くの方々に吉敷地域のことを知っていただくとともに地域の魅力を再発見していただきました。引き続き、より多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながるフォトコンテストの開催に取り組みます。</p> <p>（評価） 誰もが気軽に参加できるように、フォトコンテストを広報することで、交流したり、ふれあう人々の写真を広く募集することができました。地域内での交流の場や、地域の四季折々に姿を変える美しい景色を広く紹介するための応募作品などを活用した「よしきフォトカレンダー」の形は地域づくり協議会のウェブ上での紹介に変わりましたが、ウェブサイトでは、閲覧、ダウンロードする人も多く、フォトコンへの興味深さが分かります。カレンダーの作製は取り止めましたが、受賞者全員の作品を載せたリーフレットは、毎年好評を得ています。応募する人の定着化も見られ、吉敷フォトコンが徐々に定着しつつあることが感じられます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、地域住民や地域づくり関係団体が集まる実行委員会で、誰もが気軽に応募できる「よしきフォトコンテスト」が継続できるように進めていきます。</p>

事業名	人材発掘に向けた交流事業
事業費	1,452円（交付金1,452円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 地域の人材発掘のため地域交流センターと共催で実施する交流事業について、地域づくり協議会はアクティブエイジを対象に、地域交流センターは若者を対象にした事業をそれぞれ担当し、実施に向けて協議しました。この事業もコロナ禍の影響を受け、今年度の計画は中止となりましたが、若者対象の事業については、休耕田を活用した「YOSHIKIわくわくファームらんど」のみスタッフにより開園しました。野菜は不作に終わりましたが、次年度の進め方についても協議する機会を設けました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 7人</p> <p>（成果） 交流事業は、地域づくり協議会と地域交流センターがそれぞれ「若者」「アクティブエイジ」と担当を持つこととし、それぞれが交流事業を開催することにしていましたが、コロナ禍の影響を受け、残念ながら交流事業の開催はできませんでした。</p> <p>（評価） 地域づくりを進めていくには、新たな人材を知ることが重要であり、そのきっかけとなる交流事業は地域づくりの中心的な事業の一つです。アクティブエイジの交流事業の実施には至りませんでした。地域の耕作放棄地等を活用して、農業を体験しながら住民どうしの交流を促進する場を創出する企画については、運営スタッフによる、ジャガイモとサツマイモの植え付けのみ実施しました。次年度も実施に向けた準備を進めるなど、一定の進捗がみられます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き地域交流センターと連携しながら、地域づくり協議会との事業整理、事業担当等を協議しながら、人材発掘と育成のための事業を進めていきます。</p>

事業名	広報活動
事業費	444,879円（交付金444,879円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 地域づくり関係団体や地域住民等の参画を得て設置した「広報委員会」により、地域住民に対して発信していきたいことや、お知らせしたいことなどを互いに持ち寄り、広報紙やウェブサイトなどを活用して、地域の様々な情報を発信しました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 20人</p> <p>（成果） 地域情報を広く収集しながら、魅力ある広報紙の作成やウェブサイトの充実に取り組みました。また、広報紙に新たなコーナーを設けたり、新たな広報委員も広く地域住民から募集するなど、地域に開かれた広報委員会運営に努めるとともに、町内会・自治会未加入者にも広報紙を手にとりいただけるよう配布先の拡大などにも取り組みました。こうした結果、地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては毎年賞を受賞していますが、今年度は最高賞である「会長賞」を受賞することができました。</p> <p>（評価） より多くの地域住民のもとへ広報紙を届けたいという広報委員の地道な活動により、地域に広く知っていただける広報紙となっています。吉敷地域の魅力を届けたいと、広報委員会では活発な意見も多く出るようになり、今年度の新たなコーナーとして「みんなで防災」を設置し、地域住民に日頃から防災に関心を持っていただくようにしました。所属する団体から選出された委員が、広報紙の記事を自ら持ち寄ることを各委員が自覚できるように進めていくことが重要と思われます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、紙面の充実や配布の拡大等に取り組んでいきます。</p>

事業名	人権学習の推進
事業費	72,764円（交付金72,764円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 各種啓発活動に取り組みました。</p> <p>（実施時期） 2月</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 偏見や差別のない地域社会の形成を進め、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、幼稚園、小学校、中学校と連携した人権学習の啓発活動に取り組みました。</p> <p>（評価） コロナ禍の影響を受け、例年どおりの活動はできませんでしたが、小学校、中学校との連携により、授業を通して人権の大切さを学ぶ機会を作ることができました。今後も学校等と連携しながら、思いやりのある心を育む人権学習の推進に取り組むことが必要と考えています。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、偏見や差別のないふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりに取り組んでいきます。</p>

事業名	こどもドリームプロジェクト
事業費	0円（交付金0円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 吉敷出身のプロサッカー選手である原川力選手の帰山に合わせて、「こどもドリームプロジェクト吉敷～Jリーガー原川力選手によるサッカー教室～」を一昨年まで開催していましたが、残念ながらコロナ禍の影響により中止となりました。</p> <p>（実施時期） 12月</p> <p>（参加人数） 0人</p> <p>（成果） コロナ禍の影響を受け、今年度は実現できませんでした。</p> <p>（評価） 実施することは叶いませんでしたが、次年度に向けて、セレッソ大阪に移籍された原川力選手の代わりとなる選手や他の方法等についての協議ができました。</p> <p>（今後に向けて） 今後も引き続き、地域の子どもたちが夢を持てるように、またふるさと吉敷に愛着が持てるように、吉敷にゆかりのあるプロスポーツ選手やアーティストとのふれあう機会、ふるさとの自然にふれあう機会の創出に努めます。</p>

事業名	ホタル観賞の夕べ
事業費	0円（交付金0円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） ホタル観賞を通じて住民の地域に対する関心や愛着を深め、自然環境の保全に対する意識の高揚を図るとともに、幼稚園、保育園、小学校、中学校の子どもたちの発表の場を創出することにより、一層の地域住民の交流を図ります。</p> <p>（実施時期） 6月</p> <p>（参加人数） 0人</p> <p>（成果） 今年度も残念ながら中止となりましたが、次年度に向けて調整することができました。</p> <p>（評価） 吉敷川が貫流する吉敷地域は、県内でもホタルが乱舞する地域として知られており、長い間小学校や地域住民によりホタルの増殖・放流事業を継続し取り組んでいます。そのような中、ホタルを通じて地域への関心や愛着を深め、自然環境の保全の意識の高揚を図ったり、交流によるまちづくりを推進するために、地域ぐるみでイベントに関わることは大変重要なことと思われま</p> <p>す。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、関係団体との連携により、多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながる「よしきホタルの夕べ」の開催に取り組ま</p> <p>す。</p>

事業名	動画による活動団体の紹介
事業費	33,000円（交付金33,000円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 団体活動動画等の活用による団体活動のPRと拡充を図り、地域住民の参加を広く呼びかけるとともに、参加体験を通して団体活動の拡充に努めます。また、吉敷の美しい自然の移り変わりや地域住民の活動等を動画に残し、地域のPRや地域住民へ広く知らせることでPRに努め、地域への愛着が持てるような企画立案を図ります。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域交流センターを定期的に利用して活動している団体の日頃の様子を動画にし、吉敷ふるさとまつりの会場において紹介しました。3月には地域内で咲く桜の花や春の花などを記録に残しました。</p> <p>（評価） 吉敷ふるさとまつりの会場において自由に出入りできる環境の中で実施しました。日頃見ることが少ない団体の活動風景は、知り合いの活動や、新しい活動団体の発見につながったことと思われま</p> <p>す。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、地域で活動している団体の活動風景を動画に収めたり、美しい地域の風景等を残し、広く地域住民に紹介することで、団体活動の拡充や地域への愛着の醸成に努めます。</p>

事業名	レノファ山口が繋ぐ地域と企業の新たなまちづくり
事業費	0円（交付金0円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 交流と創造のまちづくりを進める市スマートシティ推進室のひとつの事業である「レノファ山口が繋ぐ地域と企業の新たなまちづくり」に、レノファ山口のホームグラウンドのある当地域とパートナー企業のひとつ「秋川牧園さん」とで取り組みました。YouTube配信により吉敷地域は地域住民に地域の素晴らしさを広く伝えるとともに、秋川牧園さんは、レノファ山口の選手とともに健康づくりの拡充に努めました。</p> <p>（実施時期） 10月～3月</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域課題の解決を地域内の限られた団体や地域住民でのみで取り組んでいましたが、地域を超えた企業や地域外の方々とも取り組むことができ、またその交流もできました。</p> <p>（評価） 年度内での事業成果が必要であったため、当初検討した取り組みが難しくなり、急遽、YouTube配信で各々の強みを発信することになりました。限られた時間での取り組みに、参加する関係者が意見や知恵を出し合い、同じ方向に向かうことで、地域の団結した力を確認することができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、レノファ山口がパートナー企業と地域を繋ぎ、一つの目標に向かい、連携を取りながらそれぞれの力を発信できる機会は、地域を超えた、また企業側も地域貢献という目標から、新しい試みが体験できるいい機会だと思われます。現在、計画策定を行っている時期にあたり、限られた地域内での取り組みから、レノファ山口が繋ぐ企業との取り組みも視野に入れた計画になれば、その相乗効果も素晴らしいものになると思われます。今後も、この取り組みを広く地域住民に紹介しながら、団体活動の拡充や地域活動の新たな挑戦に努めます。</p>

事業名	吉敷まちづくり計画の策定
事業費	446,970円（交付金446,970円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 安心して安全な住みよいまちづくりを目指し、個性豊かで活力のある自立した地域社会の実現のために地域住民により5ヶ年計画を策定しており、その計画期間の4年目にあたるため、総務・企画委員会を中心に策定の手順等について検討しました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 30人</p> <p>（成果） 計画期間の4年目にあたるため、吉敷まちづくり計画策定委員会を設置し、現行計画に対する地域住民の認知度や、地域課題の掘り起こしのために、アンケート調査を実施しました。</p> <p>（評価） 当地域の計画は地域づくり協議会、自治会、地区社協が一体となって取り組む計画となっており、今回の見直しについても、当地域の特徴である地域一丸となり取り組むことができました。</p> <p>（今後に向けて） アンケート集計を基に、地域活動団体や地域住民との座談会等を開催するなど、課題の集約に対し「自分たちのまちは自分たちでつくる」という精神で、解決するための手段を見つけることで見直した計画の策定に努めます。</p>

(3) 地域福祉

事業名	大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ大会
事業費	22,045円（交付金22,045円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 親睦やふれあいを目的とした様々な大会の開催を目指した中、コロナ禍の影響により中止となったものもありましたが、親睦ゴルフ大会と多世代交流グラウンドゴルフ大会は開催することができました。</p> <p>（実施時期） 11月・3月</p> <p>（参加人数） 100人</p> <p>（成果） 大運動会は、地域で一番大きな交流の場であり、様々な年齢層の住民の方々が交流を深めるとともに、地区を越えた交流ができる大きなイベントであり、親睦ゴルフ大会も地域住民の交流ができるイベントとなっています。また、グラウンドゴルフ大会は、大人と子どもがチームを組む地域独自のルールで楽しみながらプレイすることが定着し、世代を超えた交流が図られています。天候やコロナ禍により中止が続いていたグラウンドゴルフ大会は、4年ぶりに3月、コロナ対策を徹底しながら開催することができました。</p> <p>（評価） どの大会も新たな参加者を得られるようになってきており、世代を超えた交流ができるようになってきています。今年度も大運動会の開催に向けて、準備や各地区の選手集めを鑑み、コロナ禍の状況等を含めて協議しました。雨天とコロナ禍により4年間中止となっていた多世代交流グラウンドゴルフ大会については、開催により子どもとの交流や久しぶりに会う友人との交流を楽しむことができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、多くの地域住民が参加しやすい事業となるよう、次年度に向けて準備を進めていきます。</p>

事業名	えがお食堂よしき
事業費	0円（交付金0円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 近年希薄となっている地域住民どうしの交流やふれあいの場を復活させ、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 30人</p> <p>（成果） 当地域の事業目的が、地域食堂を通じて孤食を防ぎ、人材（ボランティアスタッフ）の発掘や育成、多くの地域住民が食事を通じた交流を楽しむこととしているため、今年度も残念ながら中止となりました。明日花プロジェクトが実施している「エール弁当配付」の事業には、昨年度に引き続き積極的に参加しました。</p> <p>（評価） 新型コロナウイルスの感染状況等の様子を見ながら、開催できる時期を検討するために実行委員会を開催しました。その中で、地域住民の交流を第1の目的としたえがお食堂よしきは、今年度もコロナ禍の影響を受け、開催できませんでした。また、昨年度持ち越しとなっていた、課題を解決するために地域住民からアンケートを取り、この事業の推進等を協議・検討することについても実施できなかったため、次年度に持ち越し、協議を進めます。エール弁当の配付は、コロナ禍の影響を受けているひとり親家庭と、同じくその影響から需要が落ち込んでいるお弁当屋さんへの支援もできました。</p> <p>（今後に向けて） 地域の温かい気持ち（募金、寄付など）から成り立つこの事業の意図が、無料の食堂として来場している人が多い中、どれだけ浸透しているか。その無料の食堂開設のために、毎月1ヶ月間ボランティアスタッフが活動する意味が見出せなくなる気持ちが大きくなっていることが危惧されていることが、令和元年度の課題として残っています。今後えがお食堂よしきが再開された際には、広く来場者の皆さんからアンケートを取り、この事業の推進をすべきかどうか等も含め、協議・検討を進めていきます。</p>

(4) 安心・安全

事業名	地域防災体制の充実
事業費	92,002円（交付金92,002円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 地域広報紙などを活用した防災知識の普及・啓発や防災講演会・学習会などの開催に取り組みました。また、避難に係る防災資機材の整備を進め、交流センターに設置するとともに、広報紙面上に新たなコーナーとして「みんなで防災」を設けることができました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地区防災会から選出した広報委員により、地域住民に対して活動内容をウェブサイトで紹介したり、自主防災組織等の必要性を伝えてきました。避難時に役立つ防災資機材を展示したり、避難場所での心構えや非常食の試食会など、地域防災事業の推進に努めてきました。今年度は、広報紙面上に新たな防災のコーナー「みんなで防災」を設けることができ、地域住民に広く防災に対する啓発活動もできました。</p> <p>（評価） 地域住民に対して防災意識の高揚や防災知識の普及・啓発などを行うとともに、組織内で地区防災会としての避難所運営について行政と協議ができ、一定の事業推進ができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、地域防災体制を充実していくため、各町内会・自治会から選出された防災委員との連携体制などの地区防災会の組織強化を進めていくとともに、地区防災会の果たすべき役割をはじめ組織体制等について見直し検討を始める予定です。</p>

事業名	交通安全・防犯対策
事業費	230,000円（交付金230,000円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 交通立哨や各種交通安全講座、青パトによる巡回などに取り組みました。うそ電話詐欺防止キャンペーンや防犯パトロール、交通安全教室の開催などに取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域住民に対して、うそ電話詐欺防止キャンペーン、防犯パトロールなどに取り組み、委員が率先して交通立哨などを実施しながら、交通安全や防犯対策等の必要性を伝えてきました。</p> <p>（評価） 地域住民に対して、交通安全やうそ電話詐欺防止への普及・啓発などを行ない、定例的に青パトによる巡回を実施したことにより、地域住民が交通安全やうそ電話詐欺などを普段の生活の中で意識することができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、活動を通して地域住民に交通安全・防犯対策等の必要性への周知に取り組みながら、地域の交通安全・防犯対策を進めていきます。</p>

事業名	反射鏡の充実
事業費	200,000円（交付金200,000円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 町内会・自治会等からの要望に基づき、反射鏡を整備しました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 町内会・自治会からの要望に基づき交通安全対策を実施しました。</p> <p>（評価） 路面表示により交通事故防止に寄与しました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、町内会・自治会を通して地域住民に補助制度を周知しながら、地域の交通安全対策を進めていきます。</p>

事業名	青少年の健全育成
事業費	50,617円（交付金50,617円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 青少年の健全育成のための見守り活動や各種啓発活動に取り組みました。また、「未来づくり促進特別交付金」による新たな事業「吉敷まるごとラッピングミュージアム」にも取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） あいさつを通じて、地域住民どうしが顔見知りになるとともに、見守り活動を拡大することから、青少年の安心安全、犯罪の抑制を図ることができました。また、新たな事業については関係する活動団体による実行委員会を設置し、今年度は事業内容を検討し、計画を作ることができました。</p> <p>（評価） ふれあいネットワーク協議会の組織の一員として、青少年の健全育成を地域ぐるみで進めることにより、みんなで協力してつくる安心で安全なまちづくりを推進することができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、関係団体とともに活動を通じ、連携を取りながら青少年の健全育成のための対策を進めていきます。特に、子ども110番の家の強化を図ります。次年度開催する予定の「吉敷まるごとラッピングミュージアム」に取り組み、地域住民の交流を図ります。</p>

(5) 環境づくり

事業名	環境づくり
事業費	339,832円（交付金339,832円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 環境美化活動の推進と自然環境の保全に取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 関係団体との連携のもと、美しい自然をみんなで守る快適なまちづくりを推進することができました。特に、今年度は、吉敷川河川敷に植栽していたフジバカマに旅する蝶のアサギマダラがたくさん飛来し、地域住民のみならず、報道等により地域外の人々の目も楽しませることができました。</p> <p>（評価） 関係団体からの課題を見つけ、その解決のために関係団体との連携のもと事業に取り組んだことは、今後も継続して取り組む関係性ができてきたものと思われます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、関係団体との連携を強化し、美しい環境づくりを目指しながら快適なまちづくりを推進します。</p>

事業名	ホタル増殖・放流事業
事業費	139,122円（交付金87,487円） （内自主財源：51,635円）
事業概要	<p>（実施内容） 今年度は、学校、地域、行政の連携によりコロナ禍の中でできることを検討し、5月には河川清掃、6月には大人だけのホタル採取を行いました。例年は、「ホタル放流の集い」の式典で、ホタル委員会の児童の飼育活動の発表と俳句の表彰が行われますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため式典は中止となり、3ヶ月間良城小学校で飼育したホタルの放流のみ行うことができました。コロナ禍の中でできること（採取、放流）を工夫しながら実施しました。</p> <p>（実施時期） 5月～9月</p> <p>（参加人数） 20人</p> <p>（成果） 毎年の活動によりたくさんのホタルが飛び交っていますが、昨年度、活動を中止した影響からか、今年度飛んでいるホタルの数は少ないように感じました。来年度は、ふるさとの川にたくさんのホタルの乱舞を期待したいものです。</p> <p>（評価） 地域は学校・子ども・ホタルのために参加し、学校は地域づくりの一翼を担うため開かれた学校を目指し、子どもたちは環境意識を高めるように、それぞれがふるさとへの愛着と命の尊さを学ぶことができることは、改めて有意義な事業だと考えています。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、小学校との連携を強化し、美しい環境づくりを目指します。</p>

（6）地域個性創出

事業名	文化振興
事業費	1,038,176円（交付金1,003,676円） （内自主財源：34,500円）
事業概要	<p>（実施内容） 地域散策イベントや郷土学習講座の開講、文化財の活用に向けた調査・検討など、文化による地域づくりに取り組みます。案内板の整備や文化遺産資料の収集、文化の保存・継承に取り組みました。コロナ禍の影響を受け、散策イベントは中止となりましたが、郷土学習会には、地域を超えた参加者も多く好評を得ました。また、国指定史跡の凌雲寺跡の活用については行政と連携のもと、案内看板の設置に取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 100人</p> <p>（成果） 例年好評を博している散策バスツアーは実施することはできませんでしたが、毎月会議を開き、コロナ禍でもできることを模索し、できることはコロナ対策に配慮しながら実施しました。その他、地域づくり協議会のウェブサイトに肥中街道の取り組みを掲載するなど広報と整備の充実に努めました。昨年に引き続き、古文書を教材とした「古文書読書会」も開催しました。多くの方に吉敷地域を知り、散策していただくため、今年度は凌雲寺跡の大看板を設置し、文化の保存・継承に取り組みました。歴史的文化遺産を目で見て認識することができるようになったことの意味は大きいと感じています。</p> <p>（評価） 大内氏の海外通商ルートでもあった肥中街道を演題とした講演会を開催したところ、地域を超えた参加者も多く好評を得ました。地域住民が肥中街道に興味のあることが分かります。肥中街道の拡大案内看板の設置や凌雲寺跡の案内板の設置により、住民に吉敷地域を散策してもらうための基盤づくりができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、多くの地域住民の参加が得られる地域散策講座や郷土学習講座、歴史等散策ツアーの開催などに取り組み、文化による地域住民の交流をさらに進めていきます。</p>